

## 書評

## 書評 「火山噴火」 予知と減災を考える

日本は火山大国であるということを知っている人は、国内にどれだけ存在しているのであろうか。国民が火山に関心を示す時は、比較的大きな噴火が発生したときだけで、その活動が収束するとあっという間に忘れてしまう。報道で流される情報には限りがあり、体系的に火山について解説をすることは難しい。また、現在の学校教育にも問題があり、子供たちは義務教育の中学校の1年生で習う理科の数時間で、火山の学習を終える。高校では選択制で、火山の含まれる地学について教えている学校は少数である。

そこで、火山の研究者たちは、ここ10年ほどの間に、多くの一般向けの火山啓蒙書を出すようになってきた。その先頭を走っているのが、この「火山噴火」を書いた鎌田浩毅氏である。一冊目の「火山はすごい」(PHP新書)は、一般の人々が火山に親しむきっかけを作った。二冊目の「地球は火山が作った」(岩波ジュニア新書)では、中学高校生向けに、現在の火山という学問についてわかりやすく解説している。これらに続く第三作目が「火山噴火」(岩波新書)なのである。火山の噴火現象にとどまらず、火山の予知や火山との共生についてなど、私たち日本に住む人間が、どう火山と付き合っていくべきかを、わかりやすく(一部難しい部分もあるが)解説している。

## 第1章 火山噴火とはどんな現象か

溶岩流・軽石・火山灰・火砕流・山体崩壊・火山ガス

## 第2章 噴火のタイプとその特徴

プリニー式噴火・ブルカノ式噴火・ハワイ式噴火・ストロンボリ式噴火・ストロンボリ式vsハワイ式・水蒸気爆発・マグマ水蒸気爆発・水蒸気爆発からマグマ噴火へ

## 第3章 噴火は予知できるか

地震をしらべる・地殻変動を測る・磁気と地電流で見るマグマ活動・火山ガスの変化を見る・火山のホームドクター

## 第4章 噴火が始まったらどうするか

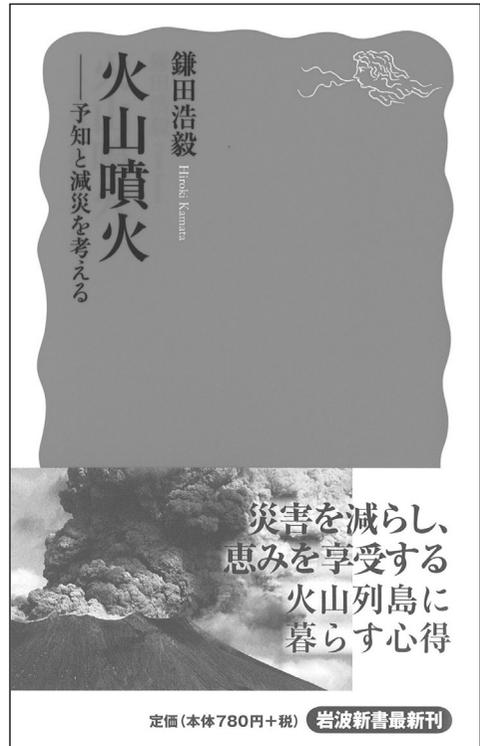
活火山のランク分け・活動中の火山のレベル化・噴火の終息までの長い道のり・ハザードマップを使いこなそう

## 第5章 火山とともに生きる

溶岩の流れを変える・災害は短く、恵みは長い・火山に親しむ・火山を知ろう・火山との共生

第1章の火山現象の部分では、パホイホイ溶岩とアア溶岩について、わかりやすく解説し、マグマがどのように地下から上昇してくるかという仕組みについても丁寧に書いている。一見安定しているように思える成層火山が、なぜ山体崩壊をするかについて、磐梯山を例にわかりやすく解説している。

第2章の噴火のタイプと特徴では、かなり踏み込ん



で詳しく解説している。

第3章の噴火予知では、現在の日本における火山の観測システムを紹介し、火山のホームドクターの必要性についても言及している。2000年の有珠山噴火の時の岡田 弘(当時：北大教授)氏の紹介も入れたら、一般の読者はより理解が進んだのではないかと、この火山のホームドクターが増えないことが、火山地域の防災力の停滞を生んでいるのではないだろうか。

第4章の噴火が始まったらでは、気象庁での最近の火山対応の変化について言及し、ハザードマップの活用の重要性を訴えている。

第5章の火山とともに生きるでは、火山は災害も発生させるが、それ以上に多くの恵みを与えてくれることを示し、火山との共存を訴えている。磐梯山の2000年の火山活動活性化による風評被害にふれている。風評被害に耳をふさぎ、火山という言葉にふたをただけではなにも変わらないことをきちんと指摘している。これからの火山地域の観光は火山防災をきちんとして初めて成り立つことを説いている。

この「火山噴火」のような、現象としての火山からはじまり、防災や共生までを網羅した啓蒙書が、日本に住む多くの人々に読まれることで、日本での火山理解が進み、火山文化が形成されていくのではないだろうか。また、若い人たちがこの本に触れることで、次の時代の火山研究者をめざすようになれば、幸いである。(磐梯山噴火記念館 佐藤 公)